

## 日本赤十字秋田短期大学看護学科卒業生の動向調査（第1報）

—卒業生の就業・進学状況と卒後の資格取得の実態—

伊藤美奈加<sup>1)</sup> 大高 恵美<sup>2)</sup> 牟田 能子<sup>2)</sup> 三瓶 まり<sup>3)</sup> 佐々木理恵子<sup>4)</sup>

### Trend Survey of Graduates in Japanese Red Cross in Akita Junior College of Nursing (First Report)

- Status of employment and higher education of graduates and completion of qualification after graduation -

Minaka ITOU Emi OOTAKA Yoshiko MUTA Mari SAMPEI Rieko SASAKI

#### 要旨

本研究では、本学看護学科卒業生の動向把握と卒業生から本学の教育に対する評価を得ることを目的に1期生から7期生までの卒業生を対象に質問紙調査を行い、163名から回答が得られた。本報では、卒業生の就業や進学、資格取得状況について報告する。

1. 卒業生の92.0%が就業しており、職種は看護師が95.0%を占めていた。就職先は93.4%が病院で、そのうち300床以上の病院への就職者は71.4%であった。また、勤務先は赤十字病院が40.0%であった。
2. 卒後の進学率は12.3%で、資格取得率は10.4%であった。資格の種類は保健師・助産師が多く、取得時期は卒業2年以内であった。
3. 卒業生の35.0%が卒業時点で進路を見つけることができたことと答え、そのうち具体的な看護領域を挙げた者が60.0%以上であった。進路決定に影響したことは臨地実習が最も多かった。

本学卒業生の進学率、資格取得率は低かったことから、看護職に期待される専門性について教授し、学生の進路の選択肢を拡げていく必要がある。

キーワード：卒業生、動向調査、就業状況、進学率、資格取得率

**Summary :** In this study, we administered a survey to all graduates of the first through seventh classes of the Department of Nursing Science. The survey was in the form of a questionnaire which evaluated our education program and trends of our graduates. 163 responses were received. This report presents the status of employment and higher education of the graduates and the status of completion of qualification after graduation.

1. 92.0% of the graduates were employed with the occupation of nurse accounted for 95.0%. Hospitals accounted for 93.4% as place of employment and 71.4% of the graduates worked for hospitals with 300 beds or more. Red Cross Hospitals employed 40.0% of the graduates employed at hospitals.
2. The advancement rate was 12.3% and the rate of completion of qualification was 10.4%. Public health nurses and obstetric nurses accounted for the majority of qualifications completed. The time to complete qualification was within two years of graduating.
3. 35.0% of the graduates responded that they had found a career at the time of graduation. 60.0% or more of the graduates responded that they chose their area of nursing. On-site practice affected the determination of most careers.

The advancement and completion of qualification rates of our school are low. Based on these results, we need to instruct students in the expertise expected for the nursing occupation and expand alternatives for their careers.

**KeyWords :** Graduates, trend survey, status of employment, advancement rate, completion of qualification

看護学科 1) 助手 2) 講師 3) 助教授 4) 教授

本研究は平成17年度日本赤十字秋田短期大学共同研究費助成による研究の一部である。尚、本研究は、第7回赤十字看護学会学術集会での報告に一部加筆・修正したものである。

はじめに

日本赤十字秋田短期大学（以下本学とする）は平成17年度で開学10年目を迎え、現在まで約550名の学生を送り出している。これまで看護学科では学生の入学動機や学科選択理由等に関する調査<sup>1) 2) 3)</sup>などの学習初段階での状況調査は行われているが、卒業後の動向など基礎教育終了後の調査は行われていない。田島<sup>4)</sup>は、看護学教育は、卒業後に社会で看護職者としての役割を果たすことを前提として行われており、卒業生の実際の活動をj確認して、その実態を教育課程編成あるいは教育の過程に活かす様にしなければならないと述べている。したがって、本学卒業生の動向や在学中の学習状況を調査することが必須であるといえる。またそれは、本学の教育に対する評価を得ることにつながると考えられ、今後の教育の充実を目指す上での意味は大変大きい。

そこで、本研究では、本学看護学科卒業生の動向把握と卒業生の本学の教育に対する評価を得ることを目的に、現在の就業や進学・資格取得状況、卒業時点での進路、本学在学中に受けた教育や学生生活について調査を行った。

第1報では、卒業生の就業・進学・資格取得状況と卒業時点での進路決定に影響したことについて調査結果を報告する。

I. 研究目的

本学看護学科卒業生の就業および進学状況と卒業後の資格取得状況の動向調査を行うことにより、本学卒業生のキャリア形成の実態を把握し、その教育上の課題を明らかにすることを目的とする。

II. 研究方法

1. 対象：本学看護学科卒業生1期生から7期生までの543名のうち研究に同意が得られた293名。
2. 調査期間：平成17年10月～12月
3. 調査方法：留め置き法による質問紙調査。質問紙は、先行研究<sup>5) 6) 7) 8)</sup>を参考に内容を検討し、プレテストを行い作成した。
4. 調査内容
  - 1) 基本的属性：背景・教育課程
  - 2) 在学中の学生生活の評価
  - 3) 就業状況：現在の就業状況・資格取得状況・離職・キャリアについて
  - 4) 看護に対する考え方
  - 5) 本学への要望

5. 倫理的配慮：本学卒業時の連絡先に往復葉書を送付し調査依頼を行った。葉書の書面で調査目的・方法、卒業生の個人評価を目的とするものではないこと、結果は本調査のみに使用し、個人のプライバシーを守ること、研究協力に同意される場合に返信葉書を郵送してほしいことを説明した。同意が得られた293名に対し調査用紙を送付した。回答数163（回収率55.6%、有効回答数163）。
6. 分析方法：卒業生の就業および進学状況、卒業後の資格取得状況に関する項目ごとに度数分析を行った。

III. 結果

回答者は平均年齢25.3歳（SD±3.8）、分布は21歳から43歳であった。性別は女性154名、男性8名、無回答1名であった。入学期生別では7期生が最も多く次いで6期生、1期生であった（表1）。看護職としての経験年数は、1年未満が36名（22.0%）と最も多く、平均経験年数は3.1年（SD±2.0）であった。

表1 対象の卒業年次 N=163

期生(卒業年数)	回答数 (%)
1期生(7年目)	28 (17.2)
2期生(6年目)	16 (9.8)
3期生(5年目)	15 (9.2)
4期生(4年目)	18 (11.0)
5期生(3年目)	18 (11.0)
6期生(2年目)	29 (17.8)
7期生(1年目)	36 (22.1)
無回答	3 (1.8)

単位：人数 (%)

1) 現在の就業状況

平成17年10月1日時点で、就業している者は150名（92.0%）、していない者は13名（8.0%）であり、職種は、看護師143名（95.3%）が最も多かった（表2）。163名中過去に看護職を辞めた経験がある者は、12名で辞めた理由は出産、結婚、進学、家族の病気等であった。離職した時期は、卒業3年目が最も多く、1年目での離職はいなかった。また12名中5名は再就職していた。

平成17年10月1日時点で勤務している施設は、赤十字病院が60名で全体の40.0%を占めていた（表3）。

施設の病床数は300～499床が最も多かった。

卒後の最初の就職先を選択した理由について26項目から複数回答とした。結果を上位10項目まで示す（表4）。「出身地である」が72名（44.2%）で最も多く、「通勤に便利である」64名、「教育・研修が充実している」51名、「自分がやりたい看護ができる」44名であった。

職場での役割として、これまでに主任の経験をした者は1名、臨床指導者の経験をした者は4名であった。

## 2) 卒後の進学・資格取得状況

本学卒業生の進学者は20名（12.3%）で、保健師・助産師専門学校、短期大学、大学への進学で大学院への進学者はいなかった。

卒後の資格取得者は17名で、保健師が10名で最も多かった。認定・専門看護師はいなかった（表5）。

取得時期は、卒後2年以内が12名と最も多かった。

## 3) 卒業時点での志望進路

卒業時点で進路を見つけることができたかという質問では「はい」が57名（35.0%）、「いいえ」が69名（42.3%）、「分からない」が33名（20.2%）、無回答は4名（2.5%）であった。「はい」と答えた者の進路は、看護領域を挙げた者が36名おり、中でも救急看護、在宅看護が共に7名と最も多く、次いで外科・周手術期が5名、小児看護、慢性期看護、ホスピスが各3名であった。また、進学希望者は12名で、内訳は保健師が7名、助産師が3名であった。その他認定看護師が2名、教育者（看護教員・臨床指導者）を希望していた者が2名であった（表6）。

進路の決定に影響したことは、臨地実習が31名（31.3%）と最も多く、次いで講義が15名（15.2%）であった（表7）。

表2 現在の就業状況 N=163

就業の有無	人数 (%)	職種	人数 (%)
就業している	150 (92.0)	看護師	143 (95.3)
		助産師	4 (2.5)
		保健師	3 (1.8)
就業していない	13 (8.0)		

単位：人数 (%)

表4 卒後最初の就職先を選択した理由（複数回答）

項目	人数 (%)
出身地である	72 (44.2)
通勤に便利である	64 (39.3)
教育・研修が充実している	51 (31.3)
知名度が高い・イメージが良い	48 (29.4)
自分がやりたい看護ができる	44 (27.0)
最先端の医療をしている	39 (23.9)
収入がよい	39 (23.9)
家族・友人・知人のすすめ	39 (23.9)
実習施設であった	39 (23.9)
赤十字に関連している	38 (23.3)

単位：人数 (%)

表3 現在勤務している施設の種類 n=150

施設の種類	人数 (%)
a. 赤十字病院	60 (40.0)
b. 厚生連	23 (15.3)
c. 国・公立病院	19 (12.7)
d. 大学病院（国立・私立）	16 (10.7)
e. a～d 以外の病院	26 (17.3)
f. 医院・診療所	2 (1.3)
g. 市町村・保健センター	2 (1.3)
h. その他（介護老人施設）	1 (0.6)

単位：人数 (%)

表5 卒後取得した資格の種類 n=17

資格の種類	人数
保健師	10
助産師	5
養護教諭	1
認定看護師	0
専門看護師	0
その他（糖尿病療養指導士）	1

単位：人数

表6 卒業時点での具体的な進路（複数回答）

	進路の内容	人数 (%)	計(名)
看護領域	救急	7 (13.0)	
	在宅	7 (13.0)	
	外科・周手術期	5 (9.3)	
	小児	3 (5.6)	
	慢性期	3 (5.6)	
	ホスピス	3 (5.6)	
	助産	2 (3.7)	
	精神	2 (3.7)	
	老年	2 (3.7)	
	整形	1 (1.9)	
	家族	1 (1.9)	
	脳外科	1 (1.9)	
	癌看護	1 (1.9)	36
進学	保健師	7 (13.0)	
	助産師	3 (5.6)	
	その他	2 (3.7)	12
看護教育	臨床指導者	1 (1.9)	
	看護教員	1 (1.9)	2
その他	認定看護師	2 (3.7)	2

単位：人数 (%)

表7 進路決定に影響したこと（複数回答）

影響したこと	人数 (%)
臨地実習	31 (31.3)
講義	15 (15.2)
教師	12 (12.1)
家族	9 (9.1)
卒業研究・ゼミナール	7 (7.1)
マスコミ	5 (5.1)
学内の友人	3 (3.0)
書籍	3 (3.0)
学外の友人	2 (2.0)
その他	12 (12.1)

単位：人数 (%)

#### IV. 考察

本学卒業生の動向に関する調査を開学10年目を期し実施した。入学期生ごとに結果を分析し、特徴をより正確に把握しようと考えたが、回答数が少ないことの限界を得て、1期生から7期生の全体の分析を行った。

##### 1. 就業状況

卒業生の92.0%が就業していることが分かった。職種は、看護師が95.3%を占めており、保健師や養護教諭等の取得した資格を生かして働いている者は少なかった。

勤務先の種類は、病院が93.4%で、病床数は300床以上が71.4%と一番多かった。さらに、勤務病院は赤十字病院が40.0%と多く、その決

定理由として「赤十字に関連している」が挙げられている。これらのことから、本学卒業生は卒業後の進路として大病院志向で、赤十字病院に就職することを希望している傾向が強いことがわかった。この理由としては、在学中の学びを生かすことができる環境を選択しているからと考えられる。これは、他の赤十字短大<sup>9)</sup><sup>10)</sup>と同様の結果であった。

また、勤務先の決定理由の一つとして、教育・研修が充実していることや自分が行いたい看護ができることを挙げた者も多く、自己のキャリアアップを重要な決定要因にしていることも明らかになった。

他の理由として「出身地である」と回答した者が多数おり、地元志向型であることがわかった。今回、就業状況と奨学金制度の利用状況との関係性については調査していない。しかし、病院や進路選択の影響要因として考えられることから、今後奨学金利用の有無との関係を調査する必要がある。

役職の経験がある者は少なく、これには、職業経験年数が平均3.1年 (SD±2.0) と短いことが影響していると考えられる。また、本調査では、勤務地を問わなかったが、地域性や施設の特性等によっても就業状況の違いがあることが予想され、今後調査を実施するにあたって質問項目として追加していく必要がある。

離職の経験がある者は12名 (7.4%) と少なく、離職した者の理由としては、結婚・出産が挙げられ、先行研究<sup>11)</sup>と同様であった。女性としてのライフイベントが転換期となり離職に至っていると考えられる。

##### 2. 卒業時の志望進路と卒後の進学・資格取得状況

卒業時点に何らかの具体的な進路を「見つけた」と答えた者は57名で、全体の約1/3を占めていた。その内容は表6に示すように、専門領域の特定、進学、資格取得など多岐にわたっていた。

それらの進路決定に影響したこととして、臨地実習とする者が最も多く、これは一戸ら<sup>12)</sup>の研究結果と同様であった。また、臨床実習は看護への興味・関心を高めイメージを膨らませるために有効な方法であり<sup>13)</sup>、実習の経験が進路決定に大きな影響を与えているといえる。今後決定要因とされる具体的な実習経験について調

査し、学生のニーズをとらえていく必要がある。

本学卒業生の進学率は12.3%で、卒業後の資格取得率は10.4%であった。また、取得時期は、70%以上が卒後2年以内であり、本学卒業後すぐに進学して保健師・助産師の資格を得ていた。保健師・助産師の資格取得に関しては、卒業後の臨床経験より在学中の学習が強い動機になっているといえる。

また、就職者の看護領域での活躍状況からみると、教育的立場の経験者は少なく、認定・専門看護師の資格取得者もいなかった。これは、平均年齢25.3歳と若く、職業経験年数が短いことが考えられる。しかし、少数ではあるが、卒業時に看護教育に携わる、臨地実習指導者や看護教員、また認定看護師を志望する者もいた。専門職としての看護職の役割が大きく取り上げられ、看護学教育の中でも、高度な専門的能力の育成が求められてきている<sup>14)</sup>。

日野原<sup>15)</sup>は、看護師の役割について単なる医師の介助者としてではなく、患者に質の高いケアを提供するために観察能力や診断能力を活用し、看護の専門性を発揮していく必要性を求めている。さらに、よい医療を行うためには看護師が他職種との共同作業をすることについて強調し、医療チームとの連携を促進するために、看護師には多方面の知識や自らが判断したことを積極的に伝えるためのコミュニケーション能力が求められているとしている。

したがって、判断能力や診断能力、コミュニケーション能力など看護の専門性を高める教育内容を構築していく必要がある。また、専門家を育成していくために認定・専門看護師等の活動内容や資格取得要件に関しても情報提供していく必要がある。このことは、学生の進路の選択肢を拡げ、より専門性の高い看護職として社会に貢献していくことにつながる。

また、キャリア形成に影響したものとして挙げられた臨地実習や講義、教師のあり方や教育・指導方法とキャリア形成との関連性を具体的に明らかにするために今後詳細な調査を重ねていく必要がある。

## V. 結論

平成17年10月1日時点における調査により以下のことが明らかになった。

1. 就業状況は、卒業生のうち92.0%が就業して

おり、勤務先は赤十字病院が40.0%で最も多かった。

職種は看護師が95%を占めていた。

2. 進学率は12.3%であり、資格取得率は10.4%で、保健師が最も多く、次いで助産師が多かった。取得時期は卒後2年以内が多かった。

3. 卒業時点で進路を見つけることができたと答えた者は35%であり、そのうち看護領域を挙げた者が60%以上おり、その内容は、救急、在宅等の専門領域であった。

4. 進路の決定に影響したことのうち最も多いものは臨地実習であり、次いで、講義であった。今後具体的な決定要因を調査する必要がある。本学卒業生の進学率、資格取得率は低かったことから、看護の専門性を高めていくための教育内容の充実をはかると共に、看護職に期待される専門性について教授し、学生の進路の選択肢を拡げていく必要がある。

## ＜本研究の限界と今後の課題＞

本研究では、1期生は卒業から7年以上が経過した時点での調査となった。また、7期生は卒後1年未満であることなど時期的な配慮が不足していた。また、対象数も少なく一般化するためには、卒業時から継続し、定期的な調査を行っていくことが今後の課題である。今回、本学開学以来の10年間の調査を行ったが、今後も定期的に継続して卒業生の活躍等の把握を行い、在学生への教育に活かしていきたい。

## 謝辞

調査にご協力いただきました卒業生の皆様に感謝申し上げます。

## 引用文献

- 1) 酒井志保他：看護学生の受験理由と看護学科選択理由に関する実態—本学看護学科1期生の入学時調査から—, 日本赤十字秋田短期大学紀要, 第1号, pp83-90, 1996.
- 2) 酒井志保他：看護学生の受験理由と看護学科選択理由に関する実態(第2報)—本学看護学科2期生の入学時調査から—, 日本赤十字秋田短期大学紀要, 第2号, pp33-41, 1997.
- 3) 酒井志保他：本学看護学科学生の学校及び看護学科選択理由の検討—本学看護学科3期生と2期生の入学時調査を比較して—, 日本赤十字秋田短期

- 大学紀要, 第3号, pp45-51, 1998.
- 4) 田島桂子: 看護実践能力育成に向けた教育の基礎, p241, 医学書院, 2002.
  - 5) 山崎裕二, 安達祐子, 鈴木祐子: 武蔵野赤十字高等看護学院および日本赤十字武蔵野女子短期大学の卒業生動態調査ー(報告1) 就業状況, 進学・研修状況, 転職・退職状況, 職業意識, 等についてー, 日本赤十字武蔵野女子短期大学紀要, 第8号, pp113-125, 1995.
  - 6) 市江和子他: 日本赤十字愛知短期大学の卒業生の実態調査(その1)ー就業状況・職業意識を中心にー, 日本赤十字愛知短期大学紀要, 第12号, pp83-92, 2001.
  - 7) 高梨一彦他: 弘前大学医療技術短期大学部看護学科卒業生の追跡調査(1)ー調査の目的と方法および卒業生の現状についてー, 弘前大学医療技術短期大学部紀要, 第23号, pp1-38, 1999.
  - 8) 佐々木幾美: 卒業生からみた看護系大学教育の評価ー問題提起と研究枠組みー, *Quality Nursing*, 4(10), pp5-10, 1998.
  - 9) 5) 前掲
  - 10) 6) 前掲
  - 11) 市江和子他: 日本赤十字愛知短期大学の卒業生の実態調査(その2)ー進学・退職理由を中心にー, 日本赤十字愛知短期大学紀要, 第12号, pp93-106, 2001.
  - 12) 一戸とも子他: 弘前大学医療技術短期大学部看護学科卒業生の追跡調査(2)ー看護教育と学生生活への評価ー, 弘前大学医療技術短期大学部紀要, 第23号, pp39-49, 1999.
  - 13) 佐々木幾美: 看護系大学教育の授業に対する評価, *Quality Nursing*, 4(10), pp16-22, 1998.
  - 14) 8) 前掲
  - 15) 日野原重明: 日野原重明著作選集(上), 医のアート、看護のアート, pp341-367, 中央法規出版株式会社, 1999.
- の評価に関する研究ー, *Quality Nursing*, 4(10), pp3-29, 1998.
- ・日景真由美他: 秋田桂城短期大学看護学科卒業生の動向の検討, 秋田桂城短期大学紀要, 第16号, pp74-80, 2004.
  - ・井上仁美他: 看護系大卒者の動向と今後の課題ー開学10年を迎えた愛媛大学医学部看護学科の卒後状況調査からー, *看護教育*, 46(7), pp535-540, 2005.
  - ・川崎くみ子他: 弘前大学医療技術短期大学部看護学科卒業生の追跡調査(3)ー就業状況と職務満足度(第1報)ー, 弘前大学医療技術短期大学部紀要, 第23号, pp51-62, 1999.
  - ・厚生省健康政策局看護課監修ー平成17年看護関係統計資料集ー.
  - ・高梨一彦他: 弘前大学医療技術短期大学部看護学科卒業生の追跡調査(1)ー調査の目的と方法および卒業生の現状についてー, 弘前大学医療技術短期大学部紀要, 第23号, pp1-38, 1999.
  - ・日本看護協会編ー平成14年看護白書日本看護協会出版会, 2002.

## 参考文献

- ・遠藤恵子他: 山形県立保健医療短期大学看護学科卒業生の動向(第1報)ー卒業生の実態と看護技術演習に対する評価ー, 山形保健医療研究, 第7号, pp49-56, 2004.
- ・出羽澤由美子他: 看護系大学教育に対する評価ー充実・役立ち・習得の意識からー, *Quality Nursing*, 4(10), pp24-29, 1998.
- ・濱田悦子他: 特集ー卒業生からみた看護系大学教育

日本赤十字秋田短期大学看護学科卒業生  
動向調査

平成17年10月

I-2. 現在の仕事について

1) 現在仕事をしていますか(H17. 10. 1 現在)  
あてはまる方に○をつけてください

1. している → 2)へお進みください  
2. していない → 次ページ6)へお進みください

2) 現在の職種を選んで下さい。

1. 看護師 2. 保健師 3. 助産師 4. 養護教諭 5. 看護教員  
6. その他( )

\*その他と答えた方は、次ページ6)へお進み下さい。

3) 現在勤務している施設の種類を選んで下さい。

1. 赤十字病院 2. 厚生連 3. 大学病院(国立・私立)  
4. 国・公立病院 5. 1~4以外の病院 6. 医院・診療所  
7. 訪問看護ステーション 8. 保健所・保健センター 9. 市町村  
10. 事業所 11. 助産所 12. 母子センター  
13. 小・中・高等学校 14. 看護系専門学校・短期大学 15. 看護系大学  
16. 助産師養成機関 17. 保健師養成機関 18. その他( )

4) 3)で1. ~6. を選んだ方のみお答え下さい。勤務している病院・医院等の病床数を選んで下さい。

1. 0床 2. 1~19床 3. 20~49床  
4. 50~99床 5. 100~299床 6. 300~499床  
7. 500~899床 8. 900床以上

2

I. まず最初にあなたご自身の背景などについてお伺いします。

なお、このアンケートにおいて、「日本赤十字秋田短期大学」は、「日赤秋田短大」と略します。

I-1. あなたご自身について

1) 性別 (1. 男性 2. 女性 )

2) 年齢 ( 歳)

3) 卒業年数( 年目) ( 期生)

4) 最終学歴

1. 短期大学卒 2. 大学卒( 学士)  
3. 大学院修了以上( 修士)( 博士) 4. その他( )

5) 日赤秋田短大卒業後の資格について当てはまる方は番号に○をし、取得時期を記入してください。また、4以降の資格については専門領域を記入して下さい。

	a. 資格	b. 取得時期	c. 専門領域
1	保健師	卒後 年目	
2	助産師	卒後 年目	
3	養護教諭	卒後 年目	
4	認定看護師	卒後 年目	
5	専門看護師	卒後 年目	
6	その他	卒後 年目	

6) 日赤秋田短大卒業後、以下の職業で働いた年数をお答え下さい。あてはまる職業の番号に○をつけ、年数をお書き下さい。

	a. 職業	b. 経験年数
1	准看護師	年 ヶ月
2	看護師	年 ヶ月
3	保健師	年 ヶ月
4	助産師	年 ヶ月
5	養護教諭	年 ヶ月
6	看護教員	年 ヶ月

1

5) 日赤秋田短大卒業後、現在までに、役職についたことがありますか。下記の◇役職の種類を参考にしてください。

1. 現在、ついている  
2. 過去についたことがあるが、現在はついでいない  
3. ついたことはない

6) 5)で1, 2. を選んだ方のみ、お答え下さい。  
現在まで経験した役職の種類とその時期をお書き下さい。  
役職の種類は下記からすべて番号で選んで下さい。同時期に複数の役職についた場合は別々にお書き下さい。

役職の種類	時期	
	卒後	年目
	卒後	年目
	卒後	年目

- ◇役職の種類 1. 看護部門の管理者(看護部長、総師長、副看護部長、副総師長など)  
2. 病棟・外来・課の管理者(看護師長・保健予防課長など)  
3. 病棟・外来・課の管理補佐(副看護師長・主任など)  
4. 臨床実習指導者・学生教育担当者  
5. その他:上記欄内に具体的にお書き下さい

3

**II. 日赤秋田短大における教育等についてお伺いします。**

**II-1. 入学時のことについて**

1) 日赤秋田短大入学時の学歴  
 1. 高卒 2. 専門学校卒 3. 短大卒 4. 大学卒 5. 大学院卒

2) 日赤秋田短大に入学する以前の社会人経験の有無  
 1. あった 2. なかった

3) 日赤秋田短大に入学した動機について伺います。一番強かったものを選んで○をつけて下さい。その他を選んだ方は( )に具体的にお書きください。  
 1. 将来自立するための資格を得たい  
 2. 短大卒業の学歴を得たい  
 3. やりがいい職業であると考えた  
 4. 看護の知識を一般教養として有用と考えた  
 5. 周囲の人にすすめられた  
 6. 希望校に入学できなかった  
 7. 看護師になることが子供の頃からの夢であった  
 8. ただ何となく  
 9. その他( )

4) 日赤秋田短大を志望したのは第一希望でしたか。  
 1. はい 2. いいえ

5) 看護師になりたい意欲はどのくらいでしたか。  
 1. 非常に弱い 2. 弱い 3. 普通 4. 強い 5. 非常に強い

6) 看護師を志望したのはいつ頃ですか。  
 1. 中学校在学以前 2. 高等学校在学中  
 3. 日赤秋田短大在学中 4. 日赤秋田短大卒業後

7) 看護職を志望した理由は何ですか。次の項目から1位~3位まで選び、番号をお書きください。  
 1位 ( ) 2位 ( ) 3位 ( )  
 1. 一生役立つ資格が得られる 2. 社会的に意義のある職業である  
 3. 仕事の重要性和りがいい 4. 人を相手の仕事である  
 5. 才能を生かせる 6. 家庭生活に活かせる  
 7. 女性が自立できる 8. 女性にとってもきわしい  
 9. 収入が多い 10. 就職に困らない  
 11. 他人のすすめ 12. 身近な人が看護者であった  
 13. 看護者の働く姿をみてあこがれた 14. 看護という仕事が好きである  
 15. なんとなく 16. 希望の進路に進めなかった  
 17. その他( )

4

**II-2. 在学中のことについて**

1) 11~21の各項目について、どの程度満足できましたか。それぞれあてはまるものを選んで○をつけて下さい。

	不 満 足	←	→	満 足	
1. 日赤秋田短大のキャンパス環境	1	2	3	4	5
2. 日赤秋田短大の施設・設備	1	2	3	4	5
3. 同級生の人数	1	2	3	4	5
4. カリキュラムとその編成	1	2	3	4	5
5. 講義の内容および方法	1	2	3	4	5
6. 演習の内容および方法	1	2	3	4	5
7. 看護過程の演習	1	2	3	4	5
8. 臨地実習の内容および方法	1	2	3	4	5
9. 臨地実習における教師の指導体制	1	2	3	4	5
10. 臨地実習における臨床の指導体制	1	2	3	4	5
11. 教師との交流	1	2	3	4	5
12. クラスアドバイザーとの交流	1	2	3	4	5
13. チューターとの交流	1	2	3	4	5
14. 同級生との交流	1	2	3	4	5
15. 看護学科の先輩・後輩との交流	1	2	3	4	5
16. 他学科学生との交流	1	2	3	4	5
17. 部活動やサークル活動	1	2	3	4	5
18. ゆとりある学生生活	1	2	3	4	5
19. 自己の成長	1	2	3	4	5
*1~5期生のみお答えください					
20. 卒業研究の内容および方法	1	2	3	4	5
*6・7期生のみお答えください					
21. 専門セミナーの内容および方法	1	2	3	4	5

2) 総合的に在学中の学生生活を振り返ってみて、それは満足できるものでしたか  
 不満足 ← → 満足  
 1 2 3 4 5

3) 在学中は、勉学に意欲的に取り組みましたか  
 1. はい 2. いいえ 3. どちらともいえない

5

4) 在学中に看護師になることや学業の継続をあきらめようと思ったことはありませんか。  
 1. はい →5)へお進みください  
 2. いいえ →次ページII-3へお進みください

5) それはいつ頃ですか ( 学年 期)

6) そう思ったのはなぜですか。1つだけ選んで○をつけてください  
 1. 課題が多くて大変であった  
 2. 学習内容が難しくついていけないと思った  
 3. 看護師には向いていないと思った  
 4. 看護に魅力を感じなくなった  
 5. 他にやりたいことが見つかった  
 6. 意欲がなくなった  
 7. 自分の病気や障害等から続けるのが難しくなった  
 8. 友人との人間関係上のつまづきがあった  
 9. 教師との関係上のつまづきがあった  
 10. 家族の看護職に対する理解不足があった  
 11. 経済的に大変であった  
 12. その他( )

7) そのとき誰かに相談しましたか。「はい」と答えた方は、主に誰に相談しましたか。上位2つ選んで○をつけてください  
 1. はい 2. いいえ  
 <主に相談した相手>  
 1. 両親 2. 兄弟姉妹 3. 親戚  
 4. 学内の友人 5. 学外の友人 6. クラスアドバイザー  
 7. チューター 8. 6・7以外の看護学科教員  
 9. 看護学科以外の短大の教師 10. 高校までの恩師  
 11. その他( )

8) あなたが最終的に看護師になることや学業を継続できた理由は何ですか。お書きください。  
 ( )

6

**II-3. 卒業時点のことについて**

1) 卒業時点で具体的な進路を見つけることができましたか。(例えば救急看護をしたいなど)  
 1. はい 2. いいえ 3. わからない  
 「はい」の方は進路を具体的に答えてください( )

2) 1)で「はい」と答えた方にお伺いします。進路の決定に影響したことはどんなことですか。上位2つ選んで○をつけてください。  
 1. 講義 2. 臨地実習 3. 学内の友人 4. 学外の友人  
 5. 教師 6. 書籍 7. マスコミ 8. 卒業研究・ゼミナール  
 9. 家族 10. その他( )

3) 以下の能力や態度等の習得状況についてどの程度満足できましたか。下の尺度の中からあてはまる程度を選んで○をつけてください。

	不 満 足	←	→	満 足	
1. 対象との人間関係を成立する能力(コミュニケーション技術など).....	1	2	3	4	5
2. 対象を身体的・精神的・社会的側面から理解する能力.....	1	2	3	4	5
3. 必要な情報を収集し、解釈・分析し看護上の問題を明確にする能力.....	1	2	3	4	5
4. 適切な看護目標を設定し、具体的な計画を立案する能力.....	1	2	3	4	5
5. 個々の看護技術を確実に展開する能力.....	1	2	3	4	5
6. 実施した看護について要点をまとめて言語で報告する能力.....	1	2	3	4	5
7. レポートを書く能力.....	1	2	3	4	5
8. 自己を評価する能力.....	1	2	3	4	5
9. 研究を展開する能力.....	1	2	3	4	5
10. 物事を論理的にとらえ、客観的に思考する能力.....	1	2	3	4	5
11. 他者の前で自分の考えや思いを発言する能力.....	1	2	3	4	5
12. 自己教育力(生涯を通して主体的に学ぶ姿勢).....	1	2	3	4	5
13. 専門職業人としての姿勢・態度(責任感、主体性、協調性、リーダーシップ等).....	1	2	3	4	5

7



4) 3)での能力や態度等を習得することに影響を及ぼした事項はなんですか。  
下に示す事項の中から影響の強い順に2つ選んで番号を記入してください。  
事項のうち、⑭のその他を選択した方は備考の欄にその内容を記入してください。

	1	2	備考
1. 対象との人間関係を成立する能力(コミュニケーション技術など).....			( )
2. 対象を身体的・精神的・社会的側面から理解する能力.....			( )
3. 必要な情報を収集し、解釈・分析し看護上の問題を明確にする能力.....			( )
4. 適切な看護目標を設定し、具体的な計画を立案する能力.....			( )
5. 個々の看護技術を確実に展開する能力.....			( )
6. 実施した看護について要点をまとめて言語で報告する能力.....			( )
7. レポートを書く能力.....			( )
8. 自己を評価する能力.....			( )
9. 研究を展開する能力.....			( )
10. 物事を論理的にとらえ、客観的に思考する能力.....			( )
11. 他者の前で自分の考えや思いを発言する能力.....			( )
12. 自己教育力(生涯を通して主体的に学ぶ姿勢).....			( )
13. 専門職業人としての姿勢・態度.....			( )

(責任感、主体性、協調性、リーダーシップ等)

事項:

①講義	②コミュニケーションに関する演習	③看護計画に関する演習
④臨床実習	⑤学内演習	⑥カンファレンス
⑦教員とのかわり	⑧臨床でのスタッフとのかわり	⑨対象とのかわり
⑩看護研究	⑪ゼミナール	⑫自己学習や努力
⑬自分の興味や関心	⑭その他	

II-4. 卒業後ことについて

1) 日赤秋田短大在学中に受けた教育の中で、現在大切なこととして残っていることは何ですか。  
3つまで選んで○をつけてください。

- 対象との人間関係の大切さ
- 対象を個別に理解することの大切さ
- 対象をありのまま受け入れること
- コミュニケーションの大切さ
- 対象の立場に立ち共感すること
- 豊かな感受性を持って対象とかわること
- 看護技術を対象に応じて工夫すること
- 看護技術の基本の大切さ
- 専門的知識・技術の大切さ
- 精神的援助の重要性
- 看護過程に沿って個別的援助を行うこと
- 主体的に行動すること
- 理論的・客観的な根拠を持って看護実践すること
- 専門職業人としての姿勢・態度(責任感、主体性、協調性、リーダーシップなど)
- 専門性を高めるための努力
- 礼儀・挨拶や言葉遣いなど基本的なこと
- 自己の健康管理
- その他( )

2) 日赤秋田短大を卒業してよかったですか。

1. はい      2. いいえ      3. どちらともいえない

III. 職業に関することについて

III-1. 日赤短大卒業後の経緯について

1) 看護職を続けたまま、勤務する施設を移動したことがありますか。移ったことがある方は、移動の時期と理由をお書き下さい。理由は下記の枠内の中から主なものを1つ番号で選んで下さい。

1. ない      2. ある      移動の回数( 回 )

移動の時期	主な理由	備考
1 卒後 年目		( )
2 卒後 年目		( )
3 卒後 年目		( )

2) 看護職を辞めたことがありますか。辞めたことがある方は、辞めた時期と理由をお書き下さい。理由は下記の枠内の中から主なものを1つ番号で選んで下さい。

1. ない      2. ある      辞めた回数( 回 )

辞めた時期	辞めていた期間	理由	備考
例 卒後 5 年目	2年間	2	
1 卒後 年目	年間		( )
2 卒後 年目	年間		( )
3 卒後 年目	年間		( )

<記入例>

辞めた回数 回

辞めた時期	辞めていた期間	理由	備考
1 卒後 年目	年間		( )
2 卒後 年目	年間		( )
3 卒後 年目	年間		( )

1. 結婚      2. 出産      3. 育児

4. 家事      5. 家族の理解が得られない      6. 家族の病気

7. 家族の転勤      8. 職場の人間関係への不満      9. 上司・管理者への不満

10. 労働時間への不満      11. 通勤に不便である      12. 給料が安い

13. 責任が重い      14. 他の職場からの誘い      15. 教育・研修の場がない

16. 自分の目指す看護ができない      17. 看護職に嫌気がさした      18. 自分の病気

19. 知識・技術等の能力不足      20. 進学      21. 適性がない

22. 寮・住宅・保育所がない      23. 自分の時間がとれない      24. 体力の限界

25. 正当に評価されない      26. 他にやりたいことがあった

27. その他 : 上記の欄内に具体的にお書き下さい

III-2. 職業の継続について

1) 卒業して最初の就職先を選択した理由は何でしたか。  
以下の項目から5つ選び番号に○をつけてください。

- 教育・研修が充実している
- 自分がやりたい看護ができる
- 進学の機会がある
- 最先端の医療をしている
- 身分が安定する
- 収入が良い
- 勤務時間が適当である
- 夜勤が少ない
- 通勤に便利である
- 寮・住宅・保育所がある
- 知名度が高い・イメージが良い
- 求人広告を見て
- 社会的評価が高い
- 良い管理者がいる
- 立地条件が良い
- 都会である
- 親元から離れたい
- 地元である
- 家族・友人・知人のすすめ
- 先輩・知人が勤務していた
- 実習施設であった
- 友人・知人が同じ就職先を希望していた
- 奨学金の関係
- 教員からの情報
- その他( )

2) 就職してからの看護職としての自分の成長に影響しているものは何だと思えますか。  
以下の項目から5つ選び番号に○をつけてください。

- 看護部が計画した新内教育
- 自主的に参加した院外の研修・学会・研究会
- 専門書・雑誌を読んだこと
- 先輩からの教育・指導
- 上司からの教育・指導
- 職場全体の向上しようという雰囲気
- 患者からの評価
- 理想とする看護者モデルが身近にいたこと
- 自分の向上心
- 職業・職場に対する満足感
- 看護経験の積み重ね
- 同僚と励まし合い、向上すること
- 学生時代に受けた教育
- 学生時代に受け持った患者とのかわり
- その他( )